

デンタルダイヤモンド／2014. 1月号

○NEW YEAR SPECIAL SYMPOSIUM：未来の歯科の道しるべー歯から始まる健康長寿

(花田信弘・蒲谷 茂・景山正登)

*歯周病に罹患すると、糖尿病やがんなどの生活習慣病のリスクを高め、認知症や寝たきりにも関与することがわかってきました。したがって、歯を守り、一生自分の歯で過ごすことは豊かな人生にもつながります。歯科は今までの齲蝕や歯周病の予防・治療だけではなく、「健康長寿を目指した予防」が求められます。そのためには、①口腔の管理を定期的に行い、歯血症を予防する ②患者さんの口腔清掃の動機付けと口腔ケアを行う ③患者さんごとにオーダーメイドの治療を行う ことが大切であることが示されています。一読をお勧めします。

○歯科臨床／次の一手：今こそ小児歯科！ ー魅力ある歯科医院づくりの活力にする

(田中晃伸・平田創一郎)

*小児歯科治療は、現在う蝕治療から成育歯科医療に変化しつつあります。この特集では、小児歯科はー1歳の母体から始まり、個体の成長に伴って対象も母親から小児へ変化する、方法論も変化していくという特殊性を持ちます。それは、これから続く連載の各論で詳細に記載されます。楽しみな連載です。

歯界展望／2014. 1月号

○特別企画／摂食・嚥下リハビリテーションをめぐる研究の現状と展望

(東京医科歯科大学高齢者歯科学分野日本大学歯学部摂食機能療法学講座)

*平成23年度の人口動態統計で、肺炎の死亡者が脳血管疾患を上回り、日本人の死因の第三位になったそう。肺炎の原因として誤嚥が重要視されている。歯科医師が食べる機能も評価したうえで診療にあたることで、死亡原因を抑える可能性があることになる。今回、具体的評価の仕方から、摂食・嚥下機能改善のための補綴装置について述べられ、さらに地域口腔保健センターでの取り組みにもふれていて、興味深い。

○コラム 新連載 シリーズ ビールは百薬の長！?

飲んでみつけた美味しいビールとその健康効果 (安彦善裕 北海道医療大学歯学部教授)

*気になるコラムを見つけたので紹介します。ビール好きの著者が自分で見つけ出した「ビールは体に良い！」というはなしと、お薦めのビールを毎月とりあげる新連載である。どこまで続くかわからないが、それこそ、ビール好きには楽しみな連載だ。

ザ・クインテッセンス／2014. 1月号

○特集4. 最新エビデンスで検証 インプラント周囲病変

① 病因論、診査・診断、疫学 弘岡秀明/Stefan Renvert

*いまだ日本ではインプラント周囲病変は広く国民には知られていない。インプラント周囲病変は自覚症状に乏しく、患者が違和感を主訴に歯科医院を訪れることは稀である。日本が抱えるインプラント周囲病変の3つの問題として、①非常に多くのインプラントシステムが使用され、比較が難しい②治療の質が歯科医院によってバラつく③リコールシステムが不十分で長期予後が少ないことを挙げ、この病変の広がりをも的確に把握し、早急な対策をとるためにも疫学調査が行われることが望まれると述べられている。インプラント周囲(粘膜)炎の定義、プロービング・エックス線写真による診断についても考察を加えておられる。3回の連載。

○特集2. かかりつけ歯科医時代の摂食機能療法と訪問診療 (植田耕一郎)

*介護予防施策の3本柱が、①運動器の機能向上支援、②栄養改善、③口腔機能の向上支援です。「基本チェックリスト」の中に口腔機能に関する問診が3つ含まれています。「半年前に比べて堅いものが食べにくくなりましたか」「お茶や汁等でむせることがありますか」「口の渇きが気になりますか」そのうち2つ以上が「はい」の場合は、このままいくと近い将来、要介護状態になる恐れのある方ということがいえます。歯科診療所の問診票のなかに組み込み、65歳以上の患者さんに回答してもらい口腔機能向上にアプローチしてみても提案されています。診療室で実施する口腔機能訓練も紹介されています。

日本歯科評論／2014. 1月号

○＜特集＞いま、顎関節症にどう取り組むべきか (矢谷博文 窪木拓男 他)

*顎関節症の取り組み方は、以前の咬合再構成ー辺倒の考え方からずいぶんと変わってきています。顎関節症は臨床症状の類似したいくつかの病態からなる包括的名称とされ、症状の自然消滅が期待できるため保存療法を優先させることが共通の考え方となっています。顎関節症の患者さんが来院されたらすぐに咬合調整をするのではなくどうするか、是非一読ください。

○親からの信頼が得られる乳幼児の歯科口腔医療 Q&A (完)

第6回 4歳頃～6歳頃(乳臼歯列完成期) (丸山進一郎)

*連載第6回(最終回)は乳臼歯列完成期についてです。Q&A方式で、指しゃぶりや夜中の歯ぎしり、偏食、発音、舌小帯異常について述べています。お母さんに質問されて返答に困った経験はありませんか。今一度整理をすることをお勧めします。